



一粒で3回おいしい
世田谷区の省エネポイント

私は生まれてこのかたほとんどの期間を東京都世田谷区に住んでいる。ご恩があるので、最近では、環境審議会の委員を務めたりしているが、そのお蔭で、ローカルのいろいろな施策に触れる機会が増えた。世田谷区施策の最近のヒットは、省エネポイントだと思ったので、紹介しよう。

これは、今年の夏の新規事業。7月から9月までの3ヵ月間のうちの任意の2ヵ月に、家庭が電力（以下、世田谷区での同事業における言い方に沿い「電気」という）またはガス（あるいはその両方）の消費量を、前年実績比で3%以上削減した場合に、商品券がもらえる仕組みである。正確には、3~6%未満までの削減で500ポイント、6~10%未満までの削減で1000ポイント、10%以上では、2000ポイントになる。このほか、結果的に減らせなくても取り組みに参加したことに対しても1000ポイント、また、家庭で使っている環境機器の感想などをこれから使おうと考える人にアドバイスの形にしてまとめると1000ポイントになるなど、環境行動に応じてきめ細かくポイントがもらえる。ちなみに1ポイント1円換算して、その額の区内共通商品券が届く仕組みである。

世田谷区省エネポイント事業



このようなインセンティブがあったお蔭で、この事業（4コースが設定）には延べ1084世帯が参加を申し込み、8月の猛暑にもかかわらず、電気・ガスの削減に取り組むコースでは、約7割の世帯が3%以上の省エネに成功した。また、前年比で10%以上の削減になった世帯も、なんと電気で全体の3割を超え、ガスでは4割近くになったということである。



慶應義塾大学大学院特任教授
工博二元環境事務次官

小林 光

ところで、このポイントの原資は何だろうか？ 実は世田谷区の住民税などは使われていない。世田谷区が昔の区立三浦健康学園跡地（神奈川県三浦市）に設けたみうら太陽光発電所（0.4MW）の発電電力の売却益を区民に還元して、この省エネポイントに充てたのである。区から見れば、太陽光発電電力によりCO₂削減をした上に、区民も削減してくれた、という話になる。

そして3回目のおいしい話とは、区民に還元されるのは区内の商店街などで使える商品券であって、区民の使ったお金は、結局、区内の商店に行くことになって、地域振興の一助にもなることである。

私も審議会会長の手前もあるので、参加した。この夏は、専門教育を受けるために住居を学校のそばに昨年来移していた娘が去年とは異なって実家に滞在し、実習に通うという不利な要素があったが、なんとか省エネし、4500ポイントを獲得することになった。

11月は私の誕生日である。誕生日パーティを近所のレストランででも開いてせっかくの商品券を使おうということになった。きっと、商品券の額面を超えて皆が飲み食いするだろうから、区にとっては一粒で4回おいしいことになりそうである。